
カツカレーの運命

高橋さくら

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カツカレーの運命

【Nコード】

N4365E

【作者名】

高橋さくら

【あらすじ】

先日行ったカレー屋さんでの出来事を綴ったエッセイです。

先日、カウンターテーブルのみのカレー屋さんで食事をした。カウンターの中では店長さんとおぼしき男性がカレーを盛りつけ、お客に出す。

カウンターの奥はトンカツなどの揚げ物を揚げたり、カレーを作ったりするスペースらしく、店員が何人かいるらしかった。(私の場所からカウンターの奥は見えなかった)

時々若い女性店員が揚げ物を渡しに店長のもとへやってくる。

カレー屋のほとんどは男性客で、お昼どきなせいかカツカレーを頼む男性が多かった。

注文を受けると店長はカツを何等分かに切り、ご飯ののったお皿にのせ、その上に丁寧にカレーをかける。慣れた手つきで盛りつける店長の働きぶりをちらちらと見ながら私は注文した野菜カレーを食べていた。

2

しばらくすると店長がやや声を張り上げた。

「カツカレーを注文された方、いらっしやいませんか？」

…が誰もそれに応じる者はいない。注文途中の客もいなかったよう
でカツカレーは宙に浮いた状態になってしまった。店長はカレー鍋の横にとりあえずカツカレーを置いた。

店長はこのカツカレーをどうするつもりなのだろう？もし次の客がカツカレーを注文したらそのまま出すのだろうか？そんな疑問が浮かぶ。

今お客がカツカレーを注文すれば、間髪入れずカツカレーが出すことができる。

「カツカレー！」「カツカレーどうぞ！」

ええー！ー！ー！早！早！なんて感じになるはず。

ちよつとワクワクしながら引き続きカレーの行方を見守っていると、立て続けにお客が2人。

さあ！注文するのだ！「カツカレー！」と。

ところが2人のお客はカツカレーを注文しなかった。一気にテンションが下がる。

「間髪入れず、カレー」「驚くお客」の図は目撃できなかった。

店長は、2人のお客にできばきとカレーを出して一息つくと、鍋の横で大人しく待っていたカツカレーに目をやり、ラップをかけた。そして、カツカレーを持って奥へと消えた。

カツカレーはカツカレーとしての人生(?)をまっとうできたのであるだろうか？

そんな新たな疑問が浮かんだのであった……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4365e/>

カツカレーの運命

2010年10月28日08時33分発行